

## 令和5年度第2回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和5年4月28日（金）午前9時28分～午前10時01分
2. 会 場 市庁舎 委員会室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋  
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章  
委 員 加 藤 洋 之 社会教育課長 千 葉 真奈美  
委 員 山 田 敦 久 合宿の里・スポーツ推進課長  
委 員 多 田 千 鶴 徳 竹 貴 之

### 4. 議 件（発言者、議事要旨及び議決事項）

#### 1 教育長挨拶

本日は今年度2回目の会議となる。会議終了後には、学校と市教委の管理職を中心に、一部オンラインを活用する形での「教育推進会議」を開催するので、引続きよろしく願います。

春が進んでいるとの印象を感じているが、一方で気温は上がっていない。士別は風の弱い地域とされていたが、ここ数年は風が強い状況に変化してきているようにも感じる場所。

各学校では交通安全指導などが行われているところであり、屋外での活動が増えてきているなか、自転車等の事故にも注意してもらいたい。

#### 2 議事について

##### ○中峰教育長 進行

議案第4号 「令和5年度士別市教育推進の重点」について説明を求める。

##### ○三上部長

コロナ禍のため、3年に亘り様々なことが止まっていたが、ウイズコロナ、アフターコロナの時代を迎え、引続き感染症対策を講じながら、長期的な学びの保障や、市民スポーツ振興を目指していく。全体的な課題として、地域スポーツ・文化活動について検討するための協議会を設立する。

##### ○中峰教育長

これまでは、士別市教育研究会や特別支援学級設置校連絡協議会なども書面会議による開催がほとんどであったが、今後は対面方式での開催に加え、研修・講習会なども積極的に再開してもらいたい。

##### ○山田委員

学校教育の重点施策・事業にある「外部人材や企業等の協力による体験的学びの提供」について、郵便局でも地域への貢献を意識している。市でも様々な企業と包括連携協定を締結しているが、部活動のあり方を考えるにあたって、個人の方では限界があるため、企業からのバックアップがあるとよいと思う。

##### ○三上部長

平日の学校部活動は、夕方の時間帯に活動しているため、仕事をしている外部指導者は、来校することが難しい状況にある。企業として、勤務時間内での部活動指導を認めていただくとありがたい。

○山田委員

ボランティアの考え方は、部活動の指導に関しても通じるものがあるように思う。

○中峰教育長

国は、まず公立中学校の休日における部活動を地域移行すべきとの考えだが、実際の導入にあたっては、平日も含めた展望が必要だと感じている。阪神淡路大震災を契機としてボランティア休暇の制度が広まったところであるが、部活動の状況を会社や企業にもご理解いただき、職員や従業員などがローテーションを組んで部活動に関わっていただく仕組みなどができるとありがたい。行政においても、フレックスタイム制の導入について検討すべきと考えるが、本市のような小規模自治体では難しい面もある。民間も行政も一体となって仕組みを変えていくため、どのようにアプローチしていくのが良いのか検討しなければならない。やれる所から導入していくべく模索していくが、特に指導員の報酬額や足の確保などについても協議が必要であり、大きな問題である。

○加藤委員

部活動指導員の報酬について、道外では1時間あたり3,000円との事例もある。また、人材確保の面でも都会であれば大学生などが集まると思うが、地方では難しい。教員の働き方改革推進の観点もあるが、その割に地域移行が進んでいる様子がない。まずは子どもたちのために良い方法を考えるべきである。市内にはどれくらい指導員がいるのか。

○中峰教育長

様々なケースがあり、どこまで含めるかによる。卓球、柔道、スキーなど、種目によって違いはあるが、大会の引率を含めて指導いただいている。「部活動の地域移行」という言い方で大きく伝えられているため、ただ単に学校から地域に移行するものと誤解されてしまっている。行きすぎた勝利至上主義などの反省から、部活動改革を進めてきた状況に加えて、教員の負担を軽減しようとするものだが、どうも部活動を地域に丸投げするような印象で受け止められているようである。以前、教員を対象に実施された市P連のアンケートでは、指導の対価として1時間あたり1,000円以上の報酬を望む声が多かった。また、ある教員が言っていた話だが、部活動の指導ができなくなることで、自分自身のモチベーションが大きく下がると言うこともある。現在、本市中学校の教員は、全員が部活動顧問を担っているが、一方では希望しないながらも顧問を務めているケースもあり、引き続き指導を行っていくか否かの意向も確認していく必要がある。これまでは、日常的にそばにいる教員が生徒指導の視点からも継続して一貫的に指導してきたが、地域に移行した場合に、生徒指導の面での必要な指導ができるかということも考える必要がある。また、部活動の時間帯を夜にずらすことにより、指導者の都合がつく場合もあると思うが、学校開放と重複してしまうことも課題となる。ただ、大人と小中高生が一緒に活動しているスポーツ団体の事例もあると聞いているので、全くできないということではない。

○加藤委員

試合に勝つことが目的の生徒と、競技そのものを楽しんでいる生徒の両方がいることにも配慮すべき。

○中峰教育長

勝つ喜び以外にも存在するスポーツ・文化活動の意義を見失っているのではないかと思う大人も多い。スポーツの語源は「楽しむ」ということであるが、いろいろな思いがあることは理解しなければならない。

○加藤委員

野球から陸上に転向した例や、その逆の事例などもある。

○山田委員

運動部活動には、スポーツと教育の両面があるため、どちらの考え方もおさえていく必要がある。活動の質についても担保しなければならない。

○中峰教育長

いずれにせよ、学校教育の範疇だけでは部活動を成立させることが難しくなっていることは間違いがない。あわせて、子どもたちが希望する活動の場の確保も難しくなっている。さらに、中学校だけの問題ではないことから、地域全体での取組が必要と考えている。

○中峰教育長

議案第5号 「令和5年度土別市教育委員会補正予算」について説明する。物価の高騰により、現在の給食費では栄養バランスや質の確保等に配慮した学校給食の提供が厳しい状況にある。新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金を活用し、保護者の負担を増やさないよう支援するものである。

(全員了承)

○中峰教育長

引き続き、教育推進会議を開催するため、以上で本会議を終了する。

午前10時01分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰 寿彰

会議録調整者 須藤 友章